

たがけい学報

The Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

特集

高崎経済大学とゼミナール

no.
91・92
合併号

特集

高崎経済大学とゼミナール

高崎経済大学の「演習」を見よ

試験問題と異なり、この世に山積する現実の問題の多くには定まった正解がない。正解のない問題への解答を導くには、自分の頭で考えるしかない。同時に、考えの異なる人と議論し、その人を説得するには自分の言葉で語る必要もある。したがって、大学では高校までの受動的な学びから主体的な学びへと大きな転換が果たされなければならない。そのために用意されているのが「演習」である。

演習(ゼミナール)は、一方的な知識の伝授である講義と対をなす授業形式をもつ。指導教授と少人数の学生により一定のテーマのもとに議論を交わしながら行われる対話型の授業である。

演習では、未知の事柄を調べる力と調べたことをまとめる力、まとめたことを口頭発表し質疑にも答える力、さらには発表した内容をレポートや論文に仕上げる力までを一貫して鍛錬する。

演習では、ともに学んで知識や技能を身につけるばかりでなく、コンパや合宿等により一生の友も得られる。

このように、大学での学びの真髄は演習にあり、演習なくして大学教育は成り立ち得ない。巷間にも演習の充実を謳う大学が数多い所以である。

CONTENTS

- 1 特集「高崎経済大学とゼミナール」
- 3-12 ゼミ紹介
 - 経済学部
 - ・経済学科 中野正裕ゼミ
 - ・経営学科 加藤健太ゼミ
 - 地域政策学部
 - ・地域政策学科 佐藤徹ゼミ
 - ・地域づくり学科 櫻井常矢ゼミ
 - ・観光政策学科 丸山奈穂ゼミ
- 13-14 学生クローズアップ! 学生環境団体 和知雅之さん
- 15-16 留学体験記 松井太一さん
- 17 入学式「高崎経済大学に入学して」 大岡帆南さん
- 18 鶴鷹祭報告「鷹が目指した夜明け」 下村拓実さん
- 19-21 新任教員紹介
- 22 写真部が行く!⑬
- 23-25 学生団体紹介
 - ・体育会本部
 - ・文化サークル協議会本部
 - ・応援団
 - ・ゼミナール協議会
 - ・地域政策学部ゼミナール協議会
 - ・国際交流協会
 - ・三扇祭実行委員会
- 26
 - ・体育会no.75「準硬式野球部」 善如寺信政さん
 - ・文化サークル協議会no.76「教職研究会」 栗原大起さん
- 27 ふるさとを語る 日本編 その31 上川雅史さん
- 28 ふるさとを語る 海外編 その30 林 怡安さん
- 29-30 たかけいINFORMATION



経済学部

経済学科のゼミ紹介

准教授 中野正裕
大学の「知」に触れる学びの場とはなにか
自らの演習指導を繰り返って

Department of
Economics



1. 経済理論を学ぶということ

大学の広報から私が担当する演習の内容や学生の活動を紹介してほしいと依頼を受けたのですが、今回は演習内容の具体的な紹介に終始するよりむしろ、演習や講義を通じて私が感じたことや学生諸君に伝えたいこと、また学習指導上の困難さ、などを綴らせていただきます。

私が本学の経済学部で演習(ゼミナール)を指導するようになって13年が経ちました。私は経済理論を用いてマクロ経済や金融の問題を分析することを専門としています。担当科目や演習では、デフレ、失業、金融危機などの現実経済で起きることからについて経済理論(モデル)を用いて分析の意義や面白さを学生に伝えたいと考えています。経済モデルとは、現実経済(の動き)を数式やグラフを用いて抽象化した経済社会のモデルのことです。現実経済の特定の動きや人々の関係性を部分的に切り取って抽象化することで、私たちは一見複雑な現実経済の問題を秩序立

てて検討することができます。このような手法は経済学に限らず科学一般に用いられるものです。理論学習を通じて増かれた論理的思考(仮説をたて、検証するような思考の手順)は、一見して科学的な知見を必要としないような各種の問題解決の場でも大いに役立ちます。よく体系化された理論分野の学習を通じて、本来ならそこに到達するのに膨大な体験と試行錯誤が要求される論理的思考のレベルに比較的短期間で到達できることは、大学で学ぶ醍醐味のひとつだといえます。

このような理由から、経済理論分野を担当する教員は学生諸君に基礎的な理論分析のスキルを身につけてほしいと願い、日々叱咤激励を繰り返すのですが、私個人の印象として経済理論の学習を「面白い」と感じてくれる学生は年々減少の一途をたどっているようです。数千人を相手にする大教室での講義だけでなく、比較的學生との距離に近い演習の場でもそのような印象を受けます。ただし、本学学生の「理論(的思考)離れ」が実際にどの程度進んでいるのか検証した訳ではないので、たんに私の學生に対する偏見が強まっているだけかもしれないことをお断りしておきます。

2. 学生にとっての経済分析と現実経済のギャップ

そもそも學生が「経済(学)」に関心があるので経済学部への入学を志しました」という場合、彼(彼女)らのいう「経済(学)」とは上に述べた「経済分析」ではなく、ほぼ例外なく「時事経済」を意味します。なお、経済学部の学習課程では「経済分析」寄りの科目が基礎科目であり、「時事経済」寄りの科目は応用科目とよばれ、すぐには学ばせてもらえません。まずは経済理論(モデル)の基礎を学べ、という訳です。しかし學生が高校までに社会科(公民)の教科書で見た経済モデルは、「政治・経済」できき、きわめて初歩的なもの(特定の商品についての需要と供給のグラフ)に留まり、その説明もこくわすかなものです。高校までに経済分析が何なのかほとんど教わっていない訳ですから、學生は人学以前の段階で経済分析に興味を抱きやすくなります。このような學生諸君に経済分析の面白さを伝えるのが、私たち教員に課せられた使命です。ところが、そこには大きく分けて3つの障害が存在します。

(a) 経済分析では非日常的な(=不慣れて難解に見える)ツールがあえて使われる

先ほど述べたように、日常的に新聞やニュースで見かける現実経済の問題を、経済理論(モデル)という日常生活では全く用いられないこと上のツールをおざろざろ変換して議論する理由を、學生諸君に早い段階から示すのは容易な作業ではありません。初級レベルの基礎概念として「機会費用」「比較優位」「価格弾力性」などは経済学者しか使わないコトバですが、学習を続けていくと実は日常的な経済現象を理解する有益な概念だということが実感できます。ただし、残念なことに、期末試験が終わるとこれらの概念をきれいに忘れてしまう學生は少なくないようです。

(b) 理論の学習には相応の根気強さが必要

先ほど短時間で論理的思考力が身につくと述べましたが、経済理論をひととおり初級から中級レベルまで学習し、それを用いて現実経済の議論ができるようになるまでには少なくとも1年半から2年程度、紙と鉛筆を使って各種の数式やグラフと根気強く格闘する必要があります。このような学習になかなか面白さを見いだせない學生にとってはただ苦痛でしかありません。近年は経済学部内で経済学よりも経営学を

志向する學生の割合が高まっています。新入生にとって、経済理論の学習に関するこうした先の見えない道をたどる恐怖感のようなものが強くなっているのかも知れません。

(c) 経済分析のスキルを身につける動機付けの難しさ

たとえば医師や弁護士を志して医学部や法学部に進んだ學生には、キャリア形成(職業資格の取得)のために一定の知識や技術を身につけることが不可欠であり、それが学部課程で学ぶ強い動機付けになります。それに対して、経済学部の學生のうち、経済学の知識や分析技術と直結した研究者や政策担当者といったキャリアを志す人の割合はそれほど高くありません。自分のキャリア計画と直結しなくとも、大学で一定の知識や技術を身につけることは學生にとって将来様々な場面で助けとなるはずですが、身につけたものを活用する機会がなかなか具体的にイメージできないので、経済分析を学習するモチベーションを長期間維持できない人が増えているのかもしれない。

3. 演習ではどうしているのか

なんだか前向きでない話題に終始し

てしまい、自分でも「こんなことばかり書いてしまっただ丈夫だろうか」という気持ちになってきました。私の演習では、ミクロ経済分析やマクロ経済分析の基礎理論の学習にかなりの時間を割きます。他所の演習で活発に行われるようなフィールドリサーチや地域連携活動などは行われず、紙と鉛筆を使って数式やグラフと格闘することが中心です(理屈ばかりで現実社会との関わりに乏しい人材を育てるものかどうかと思うので、それほど頻繁ではないですが工場見学など学外に出かけることもあります)。また、學生に個人研究のテーマを早くから選択して、関連するデータや文献を早い段階から収集、分析させています。學生のテーマ設定には制約を設けていません。近年、若年雇用、環境負荷とリサイクル、高齢化と社会福祉制度など、學生が国内の比較的身近な社会問題ばかりを研究対象に選ぶ傾向が強いと感じます。學生も余裕がなくなっているのかもしれない。學生と接する時間は限られていますが、そのなかで理論分野の継続的な学習を通じて経済分析の面白さを伝え、幅広い現実経済への関心を促し、研究に対する動機付けを進めたいと考えています。



経済学部

経営学科のゼミ紹介

准教授 加藤健太

ゼミ生の、ゼミ生による、ゼミ生のための、
そしてほくも楽しいゼミをめざして

Department of
Business
Management

ゼミの活動報告



1.ゼミの目標に何を掲げているか

ほくの専門は、日本経済史だけれども、ゼミ生に日本経営史を本格的に学んでほしいという思いはあまり強くない。2年生向けの『ゼミナール案内』には目標として、“自分の意見を自分の言葉で発信できるようになること”を掲げている。とても難しく、そして、いろいろな場面で必要とされる能力。だからこそ、約2年半の活動を通して、ゼミ生に体得してほしいのである。

2.どのような活動をしているのか

ゼミ活動は、大別して2つの経路に整理できる。1つは、特定の企業を対象にしてレポートないし論文を作成する企業研究であり、いま1つは、学内の他ゼミや他大学との対外交流である。

(α)対外交流

現在、対外交流としては、①2年次の冬に埼玉大学大石直樹ゼミ、今泉飛鳥ゼミと“プレゼンバトル”を行い、②3年次の春に学内の関根雅則ゼミと合同公開ゼミを実施、そして、③3年次の秋には渋谷栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ(ディベートリーグ)に参加している。

この中で、ゼミ生がもっともエネルギーを注ぐイベントは、⑤で開連しない。これは、慶應や日大など東京の大学を中心に、北は北海道から南は関西まで約10校の大学が参加する討論会である。毎年、5月にテーマが発表され、10月に本戦が開催される。各大学から肯定、否定の2チームが出場し、ガチで勝敗を競う。

ポイントとしては第1に、ゼミ生が日ごろ学んでいないテーマが上から降ってくる点を強調しておきたい。たとえば、2期生は「日本は農業の貿易自由

化を推進すべきである」、3期生は「環境税導入は日本経済にとってプラスである」、5期生は「日銀が行った量的緩和策は日本経済にとってプラスであった」というテーマに取り組んだ。そして、2014年8月現在、7期生は「田中角栄の『日本列島改造論』は日本経済にとってプラスであった」というテーマと格闘している。これらのテーマが彼彼女たちにとって、通常のゼミとどれほどかけ離れた世界であるかは、(β)を読めば一目瞭然だろう。

第2に、だからこそ、個人差はあってもほとんどのゼミ生は、このイベントに凄まじいエネルギーを注ぐ。本戦は10月だが、7月から他大学と練習試合(オープン戦)を行うから、常にレジュメをつくり、反駁をつくりたりして準備を進めなければならない。図書館の「グル研」や教室をとり、大学が閉まればゼミ生のアパートに集まって、仲間と議論を重ねる。本戦が近づくと、エネルギー投入量は飛躍的に高まり、遊びはもちろん、部活も、サークルも、バイトも犠牲にして、文字通り毎日朝から晩まで“ディベート漬け”の生活を送る。

第3に、これだけのエネルギーを注ぐにもかかわらず、勝利をつかむことは決して簡単ではない。2期生1勝1敗、

3期生2敗、4期生1敗1分、5期生2勝、6期生1勝1敗、通算4勝5敗1分である。勝つと負けるとではまさに天国と地獄。ほくも、勝てば「太陽が西を見つけた」ように喜び、負ければ天を仰ぐほどに悔しい。戦ったゼミ生の心中は察するに余りある。

こうした体験を通して、ゼミ生は、たとえば、「本番で最大限の力を発揮するためには万全の準備が必要だ」といったとても大切なことを学ぶ。この引用は、2勝という快挙を成し遂げた5期生で、かつMVPに選ばれた小此木美紀さんの言葉である。



(β)企業研究

以上のように、3年生のディベートリーグはもちろん、ゼミ生は対外交流

とその準備に忙しい。しかし、メインのゼミ活動はあくまで企業研究なのである。紙脈の都合上、詳細は省くが、各ゼミ生は企業の経営行動に関わる様々なテーマ、たとえば、①トヨタによるLexusブランドの日本市場への導入プロセス(正澤旭、カッコ内は執筆)、②イオンの手がけるPB「トップバリュ」の成功要因(福島麻美)、③セブン&アイの商品開発戦略(高橋輝)、④JCBのグローバル化(青木一矢)といった題材をケーススタディの手法を用いて研究している。

具体的には、1つの企業を取り上げ、『週刊ダイヤモンド』や『週刊東洋経済』等の経済雑誌をベースに、新聞(『日経MJ』等)やビジネス書、財務データ等も利用しながら情報を収集し、そうした情報を自らの問題意識に沿って取捨選択、再構成し、レポートや論文を作成する。

上記のテーマのうち、①は学生懸賞論文で佳作に入り、②と③は惜しくも賞は逃したものの、学部生とは思えないほど質の高い論文であった。彼・彼女はたちをはじめMyゼミ生は、対外交流と同時に、企業研究にもエネルギーを注ぐのである。出来栄に個人差はあっても、みんな真摯に取り組んでいる、はず。ちなみに、4年生の輝くと一矢は

懸賞論文への挑戦を表明している。金賞を取ってもらいたいと強く願う。

対外交流が仲間との協同作業であるのに対し、企業研究は基本的に個人作業である。とはいえ、通常のゼミは、ゼミ生のレポートないし論文をベースに議論をし、コメントをしたり、してもらったり、そのコメントに基づいてブラッシュアップをしたりするから、その意味では、仲間との協同作業という側面も備えている。

対外交流だけでなく、企業研究と報告、それをめぐる議論を通して、ゼミ生が“自分の意見を自分の言葉で発信できるようになること”という目標の達成に少しも近づいていると信じている。

3.語りつくせない

文字数に制約があるので、ゼミ活動のすべては語りつくせない。この「たかけい学報」を目にしたOB、OGには久しぶりに同期に連絡をとってゼミの思い出を語り合ってもらいたい、ご両親には娘さんや息子さんとゼミをネタにして対話をしてほしい、彼・彼女たちの言葉の端々に、ちょっとした成長を感じることができると思うからである。



地域政策学部

地域政策学科のゼミ紹介

教授 佐藤 徹

理論と実践の融合をめざして。

Department of Regional Policy



ゼミの活動報告

1. 私の主な研究テーマ

- ① 政策過程研究、政策評価・行政評価、政策分析、行政経営に関する理論的・実証的研究
- ② 市民参加・協働、住民自治、新しい公共、ローカルガバナンスに関する理論的・実証的研究
- ③ 公共経営、公共サービスの改革、討議デモクラシー手法、行政組織の活性化と人材育成など

2. ゼミでの活動内容

少子化、高齢化、住民の価値観の多様化、財政危機の深刻化等により、地方自治体は住民に対する説明責任を果たしながら、サービスの効率化や成果重視の行政運営が求められています。こうした中、行政はいかにして住民ニーズに対応した政策を立案・実施すればよいのだろうか、また行政はどのように民間部門と連携しながら地域の問題解決やサービス提供を行えばよいのだろうか。こうした様々な課題に対して、「理論」と「実践」の両面からアプローチし

ていきます。地域政策学部ということもあり、ゼミでは地方自治体の政策形成、政策評価を中心に調査研究を行います。また政策形成過程における住民参加、NPOと行政の協働などについても考えていきます。



3. ゼミの特長またはゼミ活動で力を入れていること

ゼミ活動の進め方はゼミ生と相談しながら決定しますが、次のように、4年次の卒業研究に向けて、2年次後半から計画的な指導を行っています。具体的には、2年次後半のプレゼミではゼミ生がテキストを輪読し、討議や発表を通じて基礎知識の修得を図つ

ていきます。そして、3年次ではゼミ生全員が協力して統一テーマのもとに調査研究を進めていきます。これをリサーチプロジェクト (Research Project: RP) と呼んでいますが、ここでは、まず2年次の基礎ゼミの内容を踏まえ、ゼミ生どうしが話し合い、調査研究したいテーマを決定します。つぎに当該テーマに関する既往文献を調査したり、複数のグループに分かれてワークショップを行ったり、全国規模の自治体アンケート調査に取り組んだり、政策現場である自治体へインタビュー調査(フィールドワーク)に出かけたりしています。こうした3年次の研究成果をもとに、4年次には一人ひとり仮説を設定し、調査研究を進め、卒業論文を完成させます。



このほか、夏合宿(2泊3日)、2年生歓迎会、OB・OG会はもちろんのこと、現職の県庁職員や市町村職員を招いての座談会を開催しています。自治体職員の仕事やその魅力などについて知る機会となっています。また、民間企業内定者による就活体験報告会や、公務員試験合格者による相談会なども毎年恒例となっており、3年生や2年生にとっては、将来の進路を決定する上で貴重な場となっています。



ゼミでは、地方自治や自治体政策の理論のみならず、実践にもとづく生きた研究を目指しています。そのため、私自身が行政(国及び自治体)の委員やアドバイザーとして政策形成過程に積極的に参画しています。また自治体職

員や議員、元首長などをゲストスピーカーとして本学に招き、自治やまちづくりの現場を知ってもらうように工夫しています。将来、都道府県や市町村など自治体職員になり、地域政策の第一線で活躍したいと思う人は、ぜひ門を叩いてみてください。



4. 卒業生の主な進路

- ① 公務員
群馬県庁、福島県庁、北海道庁、群馬県(学校事務)、群馬県警、高崎市、静岡市、東京都特別区(板橋区、豊島区)、新潟市、富岡市、那須塩原市、小諸市、長野市、寒河江市、北海道当別町、福島県桑折町、長野県南箕輪村など
- ② 民間企業

三菱UFJ証券、東京電力、ロッテ、積水ハイム、群馬銀行、山形銀行、みちのく銀行、その他他多数

③ 進学
高崎経済大学大学院地域政策研究科

■プロフィール
1977年大阪府生まれ。博士(国際公共政策)(大阪大学)。高崎経済大学地域政策学部 大学院地域政策研究科教授。同大学地域政策研究センター長。専門分野は、行政学・政策科学・政策評価論、群馬県行政改革評価・推進委員会委員長、若手県政評価委員会委員、千葉県総合計画の進行管理に関する有識者懇談会委員、戸田市外部評価委員会委員長、福川市協働審議会会長なども務める。主著に「自治体行政と政策の最先駆け」(大阪大学出版会)、「新市民参加」(編著:公人社)、市議会議と地域創造」(まようせい)、「創造型政策評価」(公人社)など。

■担当科目
行政学、政策評価論、政策科学、政策評価特論、政策評価特論演習など

ホームページ

<http://www1.tcu.ac.jp/home1/tsato/>

フェイスブックではゼミの活動情報を発信中!





地域政策学部

地域づくり学科のゼミ紹介

教授 櫻井常矢
地域をつくる学びとしての生涯学習



Department of Regional Development



ゼミの活動報告

1. 生涯学習と地域づくりとの関係は?
皆さんは、教育や学習という言葉から真っ先に何をイメージしますか? おそらく多くの人が学校教育を思い浮かべるでしょう。しかし、実は私たちの普段のくらしの中にも学習の機会は数多く存在します。就職のために資格を取ったり、病気を病みで人生の壁にぶつかったり、逆にそうした壁を乗り越え何かを達成したときなど、私たちが何かを感じ、学び、そして人として成長していくものです。さらに地域のくらしや活性化を支える地域づくりの実践の中にも学びの場が豊富にあります。例えば、地域の伝統・文化の継承、公民館や図書館などの社会教育施設での各種事業、NPO等が開催する体験型、参加型学習プログラムなど、ほかにも多様な機会があげられます。そしてこうした目に見えるものはばかりではなく、地域づくりの実践のプロセスに現れる人びとの苦悩や葛藤、喜び、あるいは信頼関係など様々な人間関係などもあげられます。地域をつくる(地域が変わる)とは、立派な施設や道路網が整備されることだけではなく、そこに住む人びとの意識改革、参加や実践の積み重ねが何よりも求められます。櫻井ゼミナール(社会教育・生涯学習研

究室)では、学校教育以外のこうした地域をつくる学びに多様な角度からアプローチし、まさに「ひとづくり」の視点から地域政策や地域づくり実践のあり方を問うことを目的としています。特に地域づくりの実践では、多様な形態、方法と同時に、地域づくりに取り組もうとする市民、団体、行政職員の主体性や力形成が重要となってきます。そのため、人びとや団体を側面からサポート(支援・育成)する人材、組織の配置など社会的な仕組みの整備が求められます。これら役割を果たす存在として、例えば社会教育職員や地域担当職員(市町村)、集落支援員(総務省)、NPOなどをサポートする中間支援組織・施設などを各地で様々な支援事業や活動を展開しています。そこにはまた人びとや団体を育てる教育や学習の営みも在っています。近年の櫻井ゼミでは、地域コミュニティの再生・活性化と向き合うこうした支援主体の「かわり方」や中間支援組織の役割に着目しています。ゼミ生は、ゼミ合宿を通じたヒアリング調査や現地学習会、あるいは次に説明する様々な地域・自治体、NPOと連携した事業を通して、人びとや地域社会が育つ仕組みについて理解を深めています。

2. 最近のゼミ活動の紹介
ゼミ活動その1
流川市介護予防推進モデル地域の構築事業(2014年度~)

介護保険法の改正(2014年)によって、地域目々が主体的に健康づくりや介護予防に取り組む仕組みづくりが全国的に求められています。流川市では、この動きに先駆けて市内子持地区吹屋自治会をモデル地域に設定し、櫻井ゼミと連携した事業を進めています。今年度は、地域づくりの講演会と2回にわたる住民ワークショップを開催し具体的な実践へと結びつける準備を進めています。一般的に「介護予防」といえば高齢者を対象とした事業に捉えられ、これを避け、逆にできるだけ若い世代の参加を促したいことから「元氣な地域づくり座談会」と称して事業展開をしています。櫻井ゼミは、この座談会の企画やファシリテーション役を務め、地域の主体的な取り組みへの側面的な支援を行っています。

ゼミ活動その2
上越市安塚区集落活性化事業(2005年度~現在)
過疎や高齢化の進む農村集落の活性化策を模索し、実践する連携事業です。新潟県上越市安塚区をフィールドにこれまでいくつかの取り組みを進めてきました。一つは、上越市への合併と同時に誕生した全町NPOの検証事業です。旧安塚町では、合併後も町の歴史や文化、地域の自治力を存続させるため、町全体を一つの団体(NPO)化させる独自の仕組みを創って来ました。この全町

NPOの誕生から5年目を迎え、その存在意義や今後の役割を検証するため、ゼミ生は各集落での座談会、全町NPOの調査過程を兼ねての学習会、全町NPOの新たな役割への提言などを行っています。さらに安塚区細野集落では、ゼミ生が年間を通じた米作りやイベントの企画運営に参画しながら、NPO法人格による集落経営の新たな展開を地域住民とともに創り上げてきています。いずれも、世代交代するゼミ生間の引継ぎ、あるいは地域住民との信頼関係を大切にすることで長期にわたる連携を成功させてきています。

ゼミ活動その3
県立高校との連携事業(2009~11年度)
高校生たちのアイデンティティ(社会的有用感)の確立、高校そのものへの地域社会からの信頼回復などを目的に、同高校の校長先生自らがご相談に来られたことがこの連携の始まりでした。ゼミ生は高校生を主役とした地域社会との関係づくりへの側面的支援を3年間にわたって進めてきました。初年度は、

高校生と大学生との信頼関係の構築、そして具体的な地域課題を調べる作業に重点を置きました。2年目は、この調査過程でお知り合いになった地域の方々との連携事業を展開し、年度末には地元食材を使った収穫祭を地域の皆さんと一緒に行いました。そして最終年度は、明らかとなった地域課題を具体的に解決する取り組みを高校生が中心となって進めました。地域の皆さんを招待しての最後の成果発表会は感動的な場面となりました。

ゼミ活動その4
東日本大震災・被災地支援(2011~13年度)
東日本大震災では、被災者たちがバラバラに避難生活をする「分散避難」の状態が続いています。とりわけ福島原発事故被災地では、この範囲が全国規模にまで広がっており、ふるさととの再生を描くことすら困難な状況にあります。櫻井ゼミでは、こうした被災者たちの話し合いの場づくりを中心に、それぞれの状況に応じた支援活動を行っています。キーワードは「被災者が主体となる復興」。被災者は助けられる存在ではなく、むしろ人びとを助ける存在として、コミュニティを再生させる主体として自らの役割を發揮することこそが被災者の自立(人間らしい生き方)に結びつくと考えています。具体的には、関東甲信越の各地を会場にした「なみえのしゃべり場」(福島県浪江町)の開催、あるいは

仮設自治会の設立促進に向けた話し合いの場づくり(宮城県東松島市)などくり返し行ってきています。



プロフィール
専門は、社会教育学、生涯学習論、地域づくり教育、東北大学大学院教育学研究科助教授・博士(教育学)、本学専任講師、准教授を経て2013年度より現職。地域づくりのプロセスにワークショップやNPOの事業活動を存在させた社会実践を各地で展開、人材育成(ひとづくり)を軸としたコミュニティ構築、市民協働によるまちづくりと実践にアプローチ。現在、自治体地域コミュニティ再生促進事業アドバイザー、全国自治体職員中央研修所「市町村あみさみー(住民と行政の協働)研修講師をはじめ、大崎市(宮城)、山形市(山形)、宮野市(伊福)など各地の自治体で政策助言等を務める。

担当科目
「学」 社会教育学、地域づくり教育、地方自治と社会教育、社会教育実践、教育社会学
「大学院」 社会教育学特論、生涯学習特論(演習) II

研究テーマ
「NPOの教育力」 地域コミュニティ再生と中間支援機能)など市民協働や市民パートナーシップによる地域・自治体の再生・活性化について研究。こうした視点をもとに、近年は東日本大震災からの復興まちづくり、人びとの群・コミュニティ再生に関する調査・研究なども進めている。



地域政策学部

観光政策学科のゼミ紹介

講師 丸山奈穂

グローバリゼーションと観光・観光人類学
観光と文化について

ゼミの活動報告

1. プロフィールと観光学を選んだ理由

私は、四国の徳島県で生まれ、高校卒業までそこで過ごし、高校卒業後は東京の大学に進学しました。卒業後は、3年ほど民間企業で働いたあと、一念発起して英語を勉強し、アメリカに留学をして観光学で学位を取りました。その後、運よく高崎経済大学で専任講師として仕事をさせて頂けることとなりました。今年で4年目となります。

アメリカに留学をしたいと思うようになったきっかけは、大学4年生のとき、グランドキャニオンを訪れて、その雄大さに圧倒されて、ここに住みたいと思ったからです。大学卒業後いったん就職をしたので、回りをしました。ここで得た社会人経験は非常に貴重なものだったと思っています。留学先のカリフォルニアでは、語学学校に通った後、大学院に入りました。よく、アメリカの大学院に入るのは簡単だけれど、卒業するのは難しいと言われることが多く、その通りでした。課題の量が非常に多く、例えば、一つのクラスで1週間に出来る課題が、本2冊と文献5つ読むこと、と

いうのはザラにありました。留学生は、1学期に3クラス取っていて、それぞれのクラスでこのレベルの課題が出るのですから、ついていくのに必死です。そして、これが、学期中(15週間)毎週繰り返されます。さすが、大量生産のお国たわ、と変なところで感心したことを覚えています。また、今自分が教員になってみていますが、課題を出す教授も大変なはずですね。

観光学を選んだ理由ですが、旅行が好きでエスニック雑貨が好きだったからです。この二つをなんとか結び付けようと思って選んだ専攻でした。当初は、修士号を取ったら旅行会社で働きたいと思っていましたが、修士論文を書くために訪れたネイティブアメリカンの集落での調査が大変でしたが楽しくて、もう少し「研究」をしてみたいと思うようになり、博士課程に進みました。

2. 私の研究テーマ

私の研究テーマは、大きく言うと、「エスニックマイノリティと観光」です。修士論文では、ネイティブアメリカンの工芸品の観光化についての研究を行いました。自分がエスニック雑貨好きだったことと、グランドキャニオンにおける白人とネイティブアメリカンの関係に興味があったことからこのテーマを選びました。

また、博士論文では、「ルーツ観光」といって、移民やその子孫たちが自分の祖国を訪ねる旅について研究をしました。

特に中国系移民2世に焦点をあて、グローバルイズムのなかで、エスニックマイノリティと言われる人達の帰属意識がどう変わっていくのか、その変化における観光の役割とは何か、について分析をしました。これは、アメリカに3年半すんだあと、肌の色や目の色の持つ意味について考えるようになったからでした。アメリカは、人種のるつぼと言われますが、実際は、肌の色というのは人々の社会生活において大きな意味を持ちます。例えば、肌の色が違うアメリカ人の大学生同士がプライベートでいっしょに行動する、ということはかなりレアなケースです。私も自分の肌の色を意識せざるを得ないことが何度もありました。そのなかで、アジア人であることの意味を自然に考えるようになった中で浮かんだアイデアでした。

高崎経済大学に来てからは、群馬県内の大泉町にあるブラジル人街と大阪生野区の韓国街の観光地化について研究を進めています。ブラジル人街も韓国街も、日本のなかの「外国文化」を観光客に見せているのですが、その活動がどのように日本人住民と外国人住民との相互理解や雇用促進、外国人を含めた地域住民のエンパワーメントにつながる

かを探ることを目的としています。日本でも、移民が非常に増えている中、「肌の色」や「民族」の持つ意味はなんなのか、また外国人も日本も心地よく生活できるために、観光はどのように役立つのか、考えていきたいと思っています。ちなみに、最近娘(5歳)の持っていたクレヨンを見て気づいたのですが、「肌色」がなくなり、「うすだいだい色」に変わっているんですね。考えてみれば肌の色は多様化はするけれど、今まで自分も意識せずに「肌色」という言葉を使っていたんだなあと反省しました。

講義は、国際観光論、観光文化政策論、観光広報伝論(観光プロモーション論)を担当しています。国際観光論は、国際観光が地域に与える影響を、文化的、政治的、経済的な面から考えていきます。観光文化論は文化の観光利用について考えます。観光プロモーション論では、ある観光地や民族が観光客にむけてプロモーション活動の対象となったときに起こる現象について考えます。どのクラスでも、できるだけ、ディスカッションを取り入れて授業を進めていくようにしています。頭で考えていることを文章にしてどんどん口に出していくってほしいと思っています。また、学生さんに発表してもらうことで、私も考えたことがなかった意見がどんどん出てきて、毎回学ぶことがたくさんあります。

3. ゼミ活動について

ゼミでは、まず、2年生の後半のプレゼミ時から3年前半までは、輪読を中心に進めていきます。観光と文化や社会に関する文献を中心にディスカッションを進めます。そして3年の後半には、グループに分かれて研究を行います。これは、個人で卒論を書く前に研究の手順を一通り踏むためです。そして、4年になると卒論に取り掛かります。グループ研究も卒論も、文化的なことに特定せず、観光全般から自分の興味のあるテーマを選んでもらうことにしています。例えば、昨年度のグループ研究は、高崎駅にあるアンテナショップについて、と前橋にある赤城クローネンベルクについての研究を行いました。卒論では、外国人観光客の受け入れに関するものや谷川岳のエコツーリズムに関するもの、復興と観光について、インドのバックパッカーについてなど多岐でした。今年もグループ研究、卒論共にたくさん新しいテーマに取り組んでいます。一人一人から面白いアイデアが出るので、定年退職するまで、研究のアイデアには困らないではないかと密かに思っています。

また、研究以外では、昨年の秋の学園祭では模擬店を出してジュラスコを販売しました。今年も出店の予定です。この夏は長瀬へ初のゼミ旅行にも出かけ

Department of Tourism Policy

ました。これらの企画は、すべてゼミ生が自主的に行ってくれています。私がリーダーシップに欠けるので(笑)ゼミ生の企画力や行動力にいつも感心し、助けられています。大泉町でのアンケートでもかなり助けてもらっています。

最後に、観光学を学んでみたいと考えている皆さん、観光学はとても楽しいです。普段、レジャーの一環として行う「観光」を少し違う側面から見たとき、南北問題や環境問題、民族関係など、いろいろな側面がみえてきます。例えば、自分達が旅行先を決めるとき、つい「本物の」何かを見る、体験する、というフレーズに惹かれますか? もしくは、旅先でガイドブックに載っていない場所やものを見つけたら、ガイドブックと同じ写真を「自分入り」で撮りたくなりませんか? (私もその一人です。)そのような、私たちが普段何気なく行っている観光行動について、その行動が社会にとってどのような意味を持つのかを考え、少しでも住みやすい社会にするために、観光をツールとしてどのように使うかを考えるのが観光学だと思えます。

学生クローズアップ!

経済学部 3年 水口 剛ゼミナール所属
学生環境団体 代表 和知 雅之



はじめに

学生環境団体は、2012年10月に発足した大学公認団体です。発足のきっかけは、高崎経済大学の環境問題に取り組む組織がなかったことです。この問題を解決するために、水口ゼミナールの学生を中心に活動を行ってきました。現在では、ゼミ生の枠組みを超えて約40人の団体として活動しています。活動は、学内の緑化班・3R班・イベント班に分かれて行っています。緑化班は、グリーンカーテンを設置し、野菜や花の栽培を通して学内の美化・緑化を中心に活動しています。3R班は、学内のエコキャップ回収・古紙回収に取り組んでいます。イベント班は、学内で環境イベントを開催したり、高崎市の環境フェアに参加したり、高崎まつりの清掃活動に参加したりと学外の活動もしています。



飛行機人間への第一歩

正直、当団体は昨年まで人数不足と組織基盤の欠如から活動が疎かになっていました。この話を耳にした水口ゼミの17期生が再建に取り組みました。このきっかけは水口教授のひとつの言葉にあります。「グライダーのように人に飛ばされるのではなく、自らのエンジン(力)で飛べる飛行機のような人間になりなさい。」という言葉です。これまで、私は、九年間の義務教育を通して、自分の意思を持たずに先生の決めたルールに乗っているだけのグライダー人間のようなものでした。今回、環境団体の代表として日本一美しく、日本一環境に配慮した大学にするという大きな目標を持ってグライダー人間から飛行機人間へ変わる道を踏み出しました。



close-up!

人とのつながり

当団体は、学生同士だけでなく、外部の方々とも出会う機会が数多くあります。社会人の方々や接することで新たな発見や新たな価値観が生まれ、人として大きく成長できると思います。高崎市の方々や協力して行った環境フェアや高崎まつり実行委員の方々や協力して行った清掃ボランティア。自分たちだけでは、困難な活動でも他団体と協力することで活動が可能となり一つの事業が成功したときの達成感は今までに味わったことのないぐらい感じる事ができました。



最後に

大学というのは、自分で目標を定めることができ、新たな発見や発見・新たなことに挑戦できる場だと考えます。私にとって学生環境団体での活動が、自分自身を成長させることができる新たな挑戦です。大学の環境、そして大学生の環境へ対する意識を変えることは困難かもしれませんが、学生環境団体の挑戦は始まったばかりです。団員が一丸となって高崎経済大学の環境をよりよくしていきたいと思っています。



留学体験記

経済学部 経営学科 3年 松井太一



ハイデルベルク城(ドイツ)周辺。他の欧州諸国にはない独特な建造物。

私が長期留学をしたいと思ったのは大学に入学したときでした。幼い頃から英語に触れる機会があり、以前2週間程度の語学研修に参加したことがありました。しかし英語を話せるようにはならず、読み書きすることができたとしても話すことができるわけではないことを知りました。話せるようになるためには長期間話し続ける必要があると考え、英語圏の国に長期間身を置くことにしました。

アイルランドでの約8ヶ月間は、今まで海外で経験したものは大きく異なりました。正直、以前参加した語学研修のときにはどうにかになっていたため、今回もどうにかなるだろうと高を括っていました。しかしダブリン空港を出た時点で現実を知りました。話す英語が早く聞き取れない、自分の話す英語が聞き取ってもらえない、簡単な質問はできたとしても本当に知りたいことを聞くためにどのように聞けばいいのかわからない。引率者がいないだけでこれだけ違うのかと思うと同時に、いかに自分の英語力が実用性のないものであったかを知りました。

初めの頃は英語が母国語ではない友人にも呆れられるほど英語をまともに聞くことも話すこともできませんでした。それでも講義を聞き、クラブ活動内でできた友人と話す中で、少しずつ会話ができるようになりました。旅行中でも道を尋ねたり観光地で話を聞いたり英語を使わないことがありませんでした。英語しか通じない環境で、英語に頼りながら生活する中で自然と英語を使えるようになりました。

大学には多くの国から学生が来ていました。そのため自ずと日本と異なる点を多く見ることができました。講義で質問する回数が明らかに多く、勉強に対して貪欲だと感じました。どんなに些細なことでも気になれば即時質問

していました。時にはくだらない質問に周りの学生が笑うこともありましたが、それでも教員は親切に対応していました。講義で日本の事柄について触れる場面があり誇らしく思う反面、知らないこともあって情けないと思うときもありました。また、大学で親しくなった友人とパーティーをしたときは各国の食べ物を食べたり、その食べ物の話から多岐にわたる話を聞いたりして、各国の多種多様な文化を身近に感じるようになりました。アイルランドで生活している中でも伝統ある行事などを通じてアイルランド特有の雰囲気を感じることができました。

ヨーロッパ諸国がこれほど近くにあると思ったことは無かったため、旅行もしました。聞いたことがある土地を実際に訪れたときはその場所にいることが信じられませんでした。負の遺産と呼ばれるような場所も訪れましたが、その土地で起きたことを想像するだけで辛くなりました。それでも実際に見ることで感じたことは多くありました。

留学先でできた友人と共に、素晴らしい環境で素晴らしい経験をすることができました。私たちのように英語を母国語としない人でも、英語を使うことで見える世界が広がりました。英語に限らず、使える言語が多いほど可能性は広がります。日本人の特徴として、外国語の読み書きすることはできるが話すことができない。外国語を話せるようになるためにはその言語を話す練習が必要だと考えています。環境を変えることで、外国語を使うことも含め日本にいてはできないことを経験できます。

今回の留学を通して英語を使えるようになっただけでなく、様々な場面で成長したと思います。また今回の留学は長期間日本から少し離れて自分の住む日本を、己自身を見つめ直す機会でもあったと思います。得るものは人それぞれですが留学することで得られるものは全て、今後の人生をより豊かにするものであると信じています。



テムズ川に架かるタワーブリッジ(イギリス)



世界遺産のピサの斜塔(イタリア)

アウシュビッツ強制収容所(ポーランド)



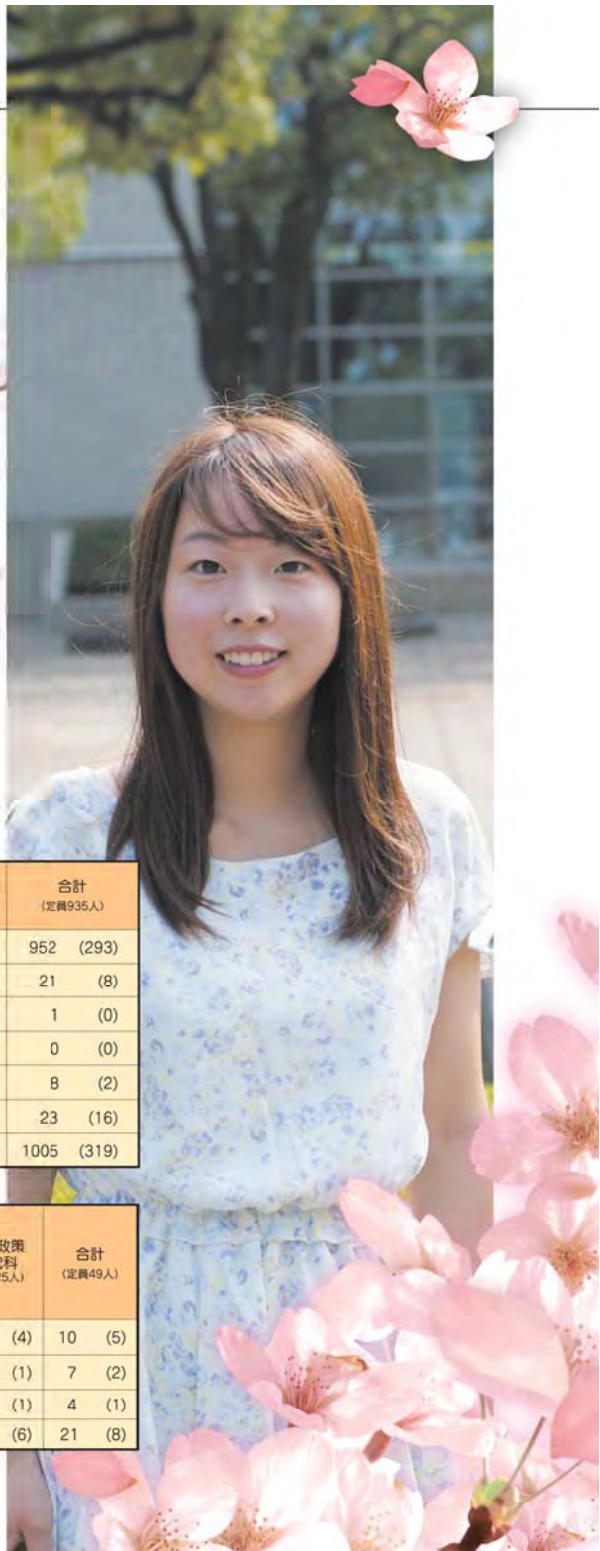
留学先の Dublin City University

年間で優秀な成績を修めた大学所属の部活動を表彰するClub Awards授賞式

入学式

高崎経済大学に入学して
地域政策学部 1年 大岡 帆南さん

厳しく苦しい受験を乗り越え、3年間の高校生活に幕を閉じたと同時に、新たに大学生活が始まりました。高校生の頃とは色々なことが変わり、私の地元である群馬だけでなく、県外から入学してきた人達との新しい出会いもたくさんありました。友人とお互いの地域の良さについて教え合うことはとても楽しいものだと感じました。また、大学の授業は90分と初めは長く感じられましたが、高校時代とは違った専門的なことを学ぶことができ、徐々に興味深いものとなりました。私は地域政策学部所属し、地域の特性を理解し、活性化のために出来ることについて関心を持つようになりまし。また、以前から興味のある英語にも力を入れ、高崎・群馬・日本、そして世界に目を向け、グローバルな視点で物を見ることが出来る人間になりたいと考えています。今後は、さらに充実した思い出多き大学生活を送るためにも、様々なことに積極的に取り組み、自らの将来に役立てていきたいです。



平成26年度 学部入学状況

入学区分	経済学部 (定員480人) 一般380人 推薦100人	地域政策学部 (定員455人) 一般300人 推薦95人	合計 (定員935人)
一般(推薦含む)	519 (142)	433 (151)	952 (293)
私費外国人留学生	7 (4)	14 (4)	21 (8)
社会人	0 (0)	1 (0)	1 (0)
帰国生徒	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2年次編入・転入	0 (0)	8 (2)	8 (2)
3年次編入・転入	0 (0)	23 (16)	23 (16)
計	526 (146)	479 (173)	1005 (319)

平成26年度 大学院入学状況

入学区分	経済・経営研究科 (定員24人)		地域政策研究科 (定員25人)	合計 (定員49人)
	現代社会経済システム専攻	現代経営ビジネス専攻		
博士前期課程 第1期・秋季日程	2 (1)	0 (0)	8 (4)	10 (5)
博士前期課程 第2期・春季日程	1 (0)	3 (1)	3 (1)	7 (2)
博士後期課程	1 (0)		3 (1)	4 (1)
計	7 (2)		14 (6)	21 (8)

鶴鷹祭

鷹が目指した夜明け

第41回鶴鷹祭結果報告
地域政策学部 4年 実行委員長 下村 拓実さん

昨年の記念すべき40回大会における11-12の惜敗。自分の部は勝利を取っていたが、私はこみ上げる悔しきを感じた。なので、今大会に賭ける思いは体育会員の中で最も強かったであろう。

また、今年の鶴鷹祭を迎える時点で、高経大には勝利を知る世代が現四年生のみとなっていた。そのため、鶴鷹祭の勝利を後の代に繋げなければならない、という思いも強く感じていた。

私は、すべての部活の会場に向かい部員と共に応援した。どの部活も全力で戦っている。その姿に胸が熱くなった。我を忘れるくらいに応援に力を込めるときもあった。しかし、結果は10-12と勝利を繋ぐことができなかった。だが、この諦めずに全力で戦いひたすらに勝利を目指した思いや姿は、後の代に繋げたと信じている。そして、彼らが必ずあの旗を取り返してくれることだろう。

最後に今大会も盛大に執り行われたことに際し、学長先生を始め、多くの先生方や地域の方々のご協力に心から感謝の意を表し、私の挨拶とさせていただきます。



第41回 勝敗結果

種目	高経大・都留大	MVP&敢闘賞
空手	○ 4-1 ●	豊島 守
弓	160射 ○ 106中・71中	関根 匠
男子剣道	● 2-4 ○	高藤 将樹
女子剣道	● 1-2 ○	榎本 光希
男子硬式テニス	○ 9-0 ●	中澤 諒
女子硬式テニス	○ 1-5 ●	佐藤 瑠
サッカー	○ 3-2 ●	阿部 純一
柔道	○ 2-0 ●	和合 興也
準硬式野球	雨天中止	-
男子ソフトテニス	● 2-3 ○	清水 昂太
女子ソフトテニス	● 0-3 ○	飯木 愛美
ソフトボール	○ 14-7 ●	細矢 真輝
男子卓球	○ 7-0 ●	茂呂 健太
女子卓球	● 0-3 ○	佐藤 実果
男子バスケットボール	○ 75-68 ●	金澤 将太郎
女子バスケットボール	● 43-74 ○	西山 千穂
男子バドミントン	● 2-3 ○	山田 新
女子バドミントン	● 2-3 ○	柳 有紗
男子バレーボール	○ 2-0 ●	赤羽 結昌
女子バレーボール	● 0-2 ○	松田 樹奈
ハンドボール	○ 38-15 ●	宮澤 友也
ラグビー	● 5-32 ○	長峰 雄二
陸上	● 30-37 ○	藤澤 悠
総合成績	● 10-12 ○	



経済学部
経済学科
安達 剛
Tsuyoshi Adachi

- ① 略歴
 - 東京生まれ
 - その後新潟、富山、横浜で育つ
 - 早稲田大学理工学部卒業
 - 早稲田大学大学院理工学研究科修士
 - 博士(工学、早稲田大学)
 - 早稲田大学理工学部助手、同大メディアネットワークセンター助教を経て2014年より現職
- ② 専門分野

統計的機械学習、情報理論とその応用、知識情報処理
- ③ 趣味、特技

小旅行、ピクニック、散歩。最近は子どもを連れて遊びに行くこと。身近な所でもいつも新しい発見があります。
- ④ 座右の銘

「オールドイング、オンガクノツツクカギリ」(ダンス・ダンス・ダンス、村上春樹)。思い悩むと足が止まってしまう性格なので、いつも自分に言い聞かせています。
- ⑤ 今後の抱負

コミュニケーションを大切にしながら学び合えることを目指して努力したいと考えています。教育・研究活動を通じてみんなで成長して行くことが目標です。



経済学部
経営学科
石田 崇
Takashi Ishida

- ① 略歴
 - 広島県出身
 - 早稲田大学政治経済学部卒業
 - 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
 - 博士(経済学)
 - 早稲田大学政治経済学術院助手を経て現職
- ② 専門分野

メカニズム・デザイン、社会的選択理論、厚生経済学、ゲーム理論、ミクロ経済学
- ③ 趣味、特技

話を聞くことが好きです。最近あったことや悩み事を聞いたり、趣味について語ってもらったり。あとは、飲酒、日本酒をよく飲みます。
- ④ 座右の銘

艱難、汝を玉にす。
- ⑤ 今後の抱負

「数学なんて役に立たない」「意味がない」というイメージを打ち破る、最高の授業を作る。ゼミ生と仲良くなる。



経済学部
経済学科
夏苺 佐宜
Sayo Natsukari

- ① 略歴
 - 武蔵大学卒業
 - 英国スターリング大学大学院修士課程修了(MSc in TESOL、英語教授法修士)
 - 昭和女子大学大学院博士後期課程修了
 - 博士(文学)
 - 立教大学教育講師等を経て現職
- ② 専門分野

英語教授法、第二言語習得。
- ③ 趣味、特技

音楽(特にイギリスのインディーロックなど)を聴きます。何を歌っているのかわかりたくて英語を勉強しました。今年はThe Royal ConceptとFoster the Peopleをよく聴いています。
- ④ 座右の銘

Be true to yourself and be brave.
- ⑤ 今後の抱負

英語教育に貢献できるよう、今後も努力したいと思います。



経済学部
経営学科
バトン ニcolas アンドリュ
Nicholas Andrew Bufton

- ① 略歴

I'm English. I have a degree in Civil Engineering from Thames, and a MSc in Teaching English for Specific Purposes from Aston University. I used to work at Kyoto University, and the Daigaku Nyushi Center.
- ② 専門分野

English for Specific Purposes, Language Testing, and Critical Thinking.
- ③ 趣味、特技

I enjoy putting theory into practice. I designed and built my own house, and even though it took more than two years to complete, it was very satisfying. I also enjoy visiting ancient historical sites in Egypt and the Mediterranean.
- ④ 座右の銘

Carpe diem "Seize the day." So I keep a bucket list and try to achieve at least one goal a year.
- ⑤ 今後の抱負

I am interested in designing teaching materials that motivate students to think critically while learning.



経済学部
経営学科
藻利 衣恵
Kinue Mohri

- ① 略歴
 - 学習院大学経済学部卒業
 - 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学
 - 修士(商学)
 - 早稲田大学商学学術院助手を経て現職
- ② 専門分野

財務会計。現在は、特にストック・オプションの会計問題を題材とし、(1)この会計問題における会計上の概念構造を整理・分析したうえで、(2)国ごとの制度的背景(会社法と税法との関係)等により生じる概念構造の相違点について研究を行っています。
- ③ 趣味、特技

将とコントラクト・ブリッジ※。 ※監査報告書のモチーフとなったゲームです。
- ④ 座右の銘

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く。」(井上ひさし)
- ⑤ 今後の抱負

学部時代の指導教授より「どんなに忙しくても、学生の質問には何時間でも対応しなさい」と指導を受け、自身もそのような環境で育ちましたので、その教育方針と研究・学内業務等と両立できるよう、精進したいと考えています。



地域政策学部
地域政策学科
佐藤 英人
Hideto Satoh

- ① 略歴

京都府出身。立命館大学文学部地理学卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。筑波大学附属高校非常勤講師、東京大学空間情報科学研究センター助教、帝京大学経済学部専任講師、准教授などを経て、2014年4月より現職。
- ② 専門分野

都市地理学、経済地理学、地理情報システム。住宅とオフィスの立地に関する研究に取り組んでいます。最近「人口減少社会が直面する郊外住宅地のゆくえ」に興味があります。
- ③ 趣味、特技

旅行、ゴルフ、ワイン、ガーデニング、鉄道模型、自作PC等。どれも中途半端なのですが、とくに自分の知らない街を訪れて散策するのが大好きです。
- ④ 座右の銘

一期一会。現在の自分があるのは、多くの方々から授かった賜物もの。貴重な出会いを大切にしたいですね。
- ⑤ 今後の抱負

学生の皆さんとともに、さまざまな都市問題を解決するための方策を考えていきます。議論の中から生まれたアイデアを社会に還元して、少しでも地域の役に立てるよう精進して参ります。

新任教員紹介

Introduce



地域政策学部
地域政策学科
福間 聡
Satoshi Fukuma

- ① 略歴
- 秋田県出身
 - 明治大学法学部法律学科卒業
 - 東北大学大学院文学研究科博士課程修了
 - 博士(文学)
 - 日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院人文社会系研究科特任研究員、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学助教授を経て現職

② 専門分野
倫理学、社会哲学、応用哲学、死生学。

③ 趣味、特技
(実益も兼ねて)育児と料理。

④ 座右の銘
自分が苦しいときは、相手も苦しい。
(『巨人の星』KC第4巻)

⑤ 今後の抱負
現在「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性」というテーマについて研究しています。「現場において活かすことができる哲学」を目標に、教育・研究活動に邁進してゆきたいと思っております。よろしくお願いたします。

- ① 略歴
- 東京都北区出身
 - 慶應義塾大学文学部で社会学を学び、一橋大学大学院社会学研究科で社会政策を研究。その後、西武文理大学サービス経営学部で2年間、佐賀大学経済学部で6年間の勤務を経て現在に至る
 - 博士(社会学)

② 専門分野
ドイツの社会政策・社会保障・社会福祉。

③ 趣味、特技
マンガを読むこと、バーめぐり、耳かき、だじゃれ、宝塚、様々な「ご当地ネタ」を知ること。

④ 座右の銘
・前進そして精進(銀座TENDERオーナーバーテンダー・上田和男氏の言葉)
・日日は好日(雲門増師)

⑤ 今後の抱負
・ドイツの社会政策・社会保障・社会福祉を、制度面および理論・思想面から引き続き研究していきます。そして、それにより、日本の制度・政策への示唆も得ていこうと思います。
・高崎および群馬の魅力を探訪します!



地域政策学部
地域政策学科
若林 隆久
Takahisa Wakabayashi

- ① 略歴
- 東京都出身
 - 東京大学経済学部経営学卒業
 - 東京大学大学院経済学研究科経営専攻修士課程修了
 - 東京大学大学院経済学研究科経営専攻博士課程単位取得退学

② 専門分野
経営学、経営組織論、ネットワーク組織論。多数の人や組織が集まって活動する時のネットワーク(つながり・社会関係)に注目して研究をしています。

③ 趣味、特技
ドラム、落語鑑賞、スポーツ観戦(NBA、日本プロ野球)。スポーツに関しては、友人に誘われてフットサルをしたりもします。

④ 座右の銘
人間万事塞翁が馬、長い人生では何がどうなるか分からないので、経験を柔軟に意味づけたり捉え直したりできることが重要だと考えています。

⑤ 今後の抱負
経営学は実践的な学問ですので、身近な組織や実在の企業を取り上げながら、実際に役立てられるような講義を行いたいと思います。また、大学は卒業後も財産となるような「つながり」を作れる機会だと思っているので、特にゼミでは「つながり」を重視した運営を行いたいと考えています。



地域政策学部
地域づくり学科
森 周子
Chikako Mori



写真部が行く! ⑬

今回の写真 地域政策学部 2年 中村 拓洋



カメラが発明されて以来、時代の動きをリアルにそして細密に切り取ってきた写真家たち。そんな写真家を夢見て日々技術を磨く若者たちの練習の場所として、高崎をテーマにフリーで取材を敢行するコーナーです。一撮入魂、今回はどんな高崎を切り取って来るのでしょうか?

【撮影データ】
Nikon D7000
VR 18-105mm f/3.5-5.6G (焦点距離98mm)
ISO 200 F8 SS 1/1000

高崎だるま。

高崎名産といえば、多くの人々がまず「だるま」を思い浮かべるでしょう。高崎は、だるまの生産量が日本一です。だるまは日本各地で縁起物として親しまれ、選挙の際には、立候補時に左目玉を墨で入れ、当選後に右目玉を墨で入れる光景が馴染みとなっています。この「選挙だるま」のほとんどが高崎で生産されているそうです。

ところでこのだるま、どうやって作られているのでしょうか。一時期に集中して作られているので、通常はなかなか見る機会がないと思います。

私の自宅から自転車で10分ぐらいの国道18号線沿いの高崎市藤塚町に「大門屋」というだるま屋さんがあります。そこで、昨年の10月下旬、朱色の色付けの作業を見ることができました。撮影許可をいただき撮影したのですが、まさしく赤一色。職人さんが手まで紅く染めながら、だるまを丁寧に染めていきました。

また今年もだるまの季節がやってまいりました。今年も大門屋へ伺うと、昨年と変わらない真っ赤なだるまが私を出迎えてくれました。例年と違う短い夏が終わり、実り豊かな秋がやってきます。

学生団体紹介

その1

体育会本部

私たち体育会本部は、26の部活動の統括をおこなっています。また、体育会の1年生を対象としたフレッシュマンズキャンプ、2年生を対象としたリーダーズキャンプ、都留文科大学体育会との対抗戦である鶴鷹祭、これらの三大行事の運営も行っています。体育会が体育会員にとってより良いものになるように活動しています。



文化サークル協議会本部

文化サークル協議会本部では、①サークルの活動支援②高崎市や後援会からいただいている補助金の配分③文サ全体で行うイベントの企画運営を主な活動として行っています。



応援団

私達は大学、更には高崎市、そして群馬県の発展に貢献する為に多くの活動を行なって居ります。具体的には、各種スポーツ応援は勿論の事、歳末助け合い募金や老人ホームへの慰問、献血活動等を行なって居ります。



ゼミナール協議会

ゼミナール協議会は、主に経済学部ゼミナール活動のサポートをするため、大学側と学生側の橋渡しを担っています。また2年生を対象とした「ゼミナール説明会」や、新入生を対象とした「履修登録説明会」をはじめとして、学生向けの企画の運営を行っています。



地域政策学部 ゼミナール協議会

地ゼミと呼ばれる私たちは、地域政策学部に所属する学生を中心に、学術支援企画や就職活動支援企画を行っています。ゼミナール説明会やプレゼン大会、合同企業説明会送迎バス事業など、それぞれの企画は毎年大変ご好評を頂いております。



学生団体紹介

その2

国際交流協会

わたしたち国際交流協会は本学の留学生で構成された協会です。留学生に日本での大学生活の楽しさをより一層感じてもらうことが本協会の基本方針です。本学六大団体の一員として、日本人学生と一緒に校内の活動に積極的に参加しています。また、学外では、ボランティア活動や、市や県が主催している各種国際交流活動にも協力しています。



三扇祭実行委員会

本委員会は、1~3年の学生有志により構成されています。11月までは本学の大学祭[三扇祭(みつおうぎさい)]、12月~4月は新入生歓迎事業の企画・運営をしており、来場者の方々に楽しんでいただける行事を目指して活動しています。



倶楽部紹介

体育会

no.75

準硬式野球部

地域政策学部 3年
善如寺 信政さん



準硬式野球部は1957年に創部しました。現在は、グラウンドをソフトボールと硬式野球部とで時間を分けて活動しています。準硬式野球と言われても分からない人が多いと思います。準硬式野球は使うボールが違っただけで、ルールは硬式野球と全く同じです。ボールは簡単に言うと「内側が硬式で、外側が軟式」ということです。準硬式野球は大学にしかないですが、強い大学などは高校で甲子園にも出た有名な選手も多くプレーしていて準硬式野球のレベルはとても高いものです。レベルが高い野球をしたい、新しく始めたい、そんな人たちにピッタリなスポーツです。

練習は全開大会出場を目指し週5日で行っています。練習時間は11時~14時までと授業と被る時間帯なので、部員は

上手く授業を組み練習を行っています。監督やコーチといった人がいないので、のびのびと楽しく練習をすることが出来、楽しさの中にも厳しさがある、そんな練習を目指してキャプテン中心に行っています。練習メニューやスタメンなども全てキャプテン、副キャプテンが決めています。部員も現在は選手45人マネージャー5人と、高経の体育会の中でもとても大きな部活です。しかし、ここ最近あまり良い成績を残せていません。全国大会にも出た強い高経を取り戻すために、まずは目の前に迫った秋リーグを精一杯戦い、この秋リーグで引退する3年生も多いので日々の練習の成果を存分に出して戦ってきたいです。



文化サークル協議会

no.76

教職研究会

地域政策学部 3年 栗原 大起さん



私たち教職研究会は、今年の7月に文化サークル協議会に正式入会いたしました。設立からまだ日が浅いですが、高崎経済大学唯一の教職サークルとして日々活動しています。今回、この場をお借りして簡単に活動の紹介をさせていただきます。

当研究会は、全体で13人ほどの部員で活動しています。活動内容としては、主に2つあります。

1つ目は、討議活動です。私たちは、毎週土曜日に教育時事や学校教育に関する討議を行っています。今年は、「学校給食について」や「学校教育と読書」などの議題で話し合いをしました。また、今年度からは他大学の学生も討議に参加

し、より活発な議論が行われています。

2つ目は、群馬県総合教育センターが主催する「21世紀群馬教育賞」に向けた論文の作成です。毎年最も力を入れている行事です。今年度も、10月の論文提出に向けて各自がそれぞれの研究課題に取り組んでいます。また、教育センターのホームページに当研究会の部員の論文が掲載されています。平成23、24年度と2年連続で賞をいただいています。ぜひご覧ください！

その他にも、大学で教職課程を取る学生への情報提供や、教員採用試験に必要な知識を学ぶ勉強会などを随時行っています。

教職研究会という名称から非常に堅苦しいイメージを持たれるかもしれませんが、実際は部員同士の仲も良く、和気あいあいと活動をしています。もし興味を持たれた方はご連絡ください！Twitterのフォローもよろしく願いします！(TwitterID @tcue_oshiken)

ふるさとを語る

日本編 その31

石川県

「独自の文化と自然が残る
離れたからこそ分かる地元のありがたさ」

石川県は北陸地方に位置していて、日本海へ親指の形のように飛び出ており、たくさんの雨や雪が降ります。また来年には北陸新幹線が開通し、東京や高崎からのアクセスがかなりしやすくなります。これまでは関西方面へのアクセスの方が容易だったので、話し方としてはそちら寄りのイントネーションでありながら、独自の方言が使われているのが特徴です。また、日本海はもちろん、車で走れる砂浜「なぎさドライブウェイ」や日本百名山の1つである「白山」、世界農業遺産の「能登(千枚田)」など様々な自然が存在しています。

石川県には小京都と呼ばれる金沢市、多くの伝統が残る加賀市など、現在も古くからの文化や歴史が色濃く残っている地域があります。金沢市は北陸地方で最大の都市でありながら、金沢城や兼六園、ひがし茶屋街といった建造物、街並みとの共存がなされています。加賀市には加賀友禅や九谷焼などの伝統品があり、現在も中心産業としてそれを支えています。私が中学3年の時、金沢市を遠足で訪れました。上記の場所などを巡り、実際にそれらの文化や歴史、雰囲気に触れることが出来たのが思い出です。

私が高崎市で一人暮らしを始め、2年以上が経過しました。当然だとは思いますが、石川県の次に長く暮らしている場所であり、居心地も大分良くなってきて、第2の故郷であることは確実です。しかし、月日が経てば経つほど、地元への思い入れが強くなっていきます。たまに地元へ帰ると、暮らしていた時には全くわからなかった地元の雰囲気がとても過ごしやすかったんだと実感できます。

でも、離れたからこそ地元の風景や雰囲気はもちろん、それ以上に家族や友人の存在、それらへのありがたみを感じられたのではないかと思います。



ふるさとを語る

海外編 その30

台湾 台北市

「懐かしさと新しさが共存
台湾で最も賑わいのある大都市」

台湾最大の都市であり、1949年からは中華民国の首都でもある台北は、先史時代には湖であった盆地の中で発達してきた都市です。台北の人口は約269万人、政治や経済、文化、物流の中心地としてこれまで発展してきました。高層ビルが建ち並んでいる表通りは、車やバイクが激しく行き交っており、通りの人々の声も賑やかで、まさに喧騒の大都市といった表現がぴったりです。

2年前から日本に留学し、初めての海外生活を始めました。今年の夏休みには一度帰国しましたが、台北

は2年前と相変わらずで、賑やかな街や台北でしか食べられないグルメ、便利な交通など、懐く懐かしく感じました。久しぶりに帰った台北の雰囲気は東京と似ていて、高崎との違いを感じました。私にとっては、やはり台北での暮らしがいいと思います。18年生活していた故郷なので、いい思い出がいっぱいあるからです。

台北は観光都市でもあり、毎年たくさんの観光客がここに訪れます。故宮博物院は世界四大博物館の1つに数えられていて、約70万以上の古代中国の術品を所蔵しています。

ほとんどの取集物は中国の古代の皇帝によって集められたものです。台北市の景色を一望でき、101階建て508メートルという世界有数の高さを誇る台北101も、とても有名な観光スポットです。また、台湾の伝統料理が食べれる夜市は観光では外せません!夜市は多くの屋台や店が並び食事などを楽しむ人々で賑わいます。有名な夜市は士林観光夜市と饒河街夜市です。



▲桜の季節の金沢城



▲一番高いビルは台北101です。



▲夏は、マンゴーアイスが定番です。



▲台北有名な夜市、饒河街夜市です。台湾人だけではなく、観光客もいっぱいいます。



▲中華民国の元総統蔣介石を記念して建てられた中正紀念堂です。

就職支援

就業力育成ネットワークを開催します

現役生が同窓生と交流することにより、仕事・社会に対する考え方、在学中の過ごし方などを考える機会として、「就業力育成ネットワーク・同窓生との交流会」を実施しています。

11月15日(土)に本学7号館で「就業力育成ネットワークin高崎」を開催し、北は北海道から南は九州まで、全国から同窓生約40人にお集まりいただき、「出身地別説明会」「業種別説明会」「交流会」を開催します。

学生は出身地別グループ・希望業種別グループに分かれ、同窓生から出身地の就職情報や、自分自身の仕事への取り組み方、業種別の仕事内容などを伝えていただきます。交流会では同窓生と積極的に情報交換を行い、就職活動への不安を解消することができます。

また、このイベントは地方の学生には地元を知る良いチャンスになっています。

キャリア支援センターからのお知らせ

キャリア支援センターでは、10月以降、3年生を対象にSPIやエントリーシート対策講座、女子向けやリターン、業界セミナー等の開催を予定しています。また、面接対策やグループディスカッションの実践講座、就活の悩みを相談できる就職相談会も予定しています。ぜひ活用してください!

●お問い合わせ＝学生グループキャリア支援チーム：電話027-344-6263

◆高崎会場



公開講座

現在、公開講座を下記のとおり実施しています。興味のある方はお問い合わせください。

- 時間＝18時30分から20時00分 ●場所＝高経大6号館621教室
- 定員：100名 ●受講料＝2,000円
- お問い合わせ＝研究グループ研究支援チーム：電話027-344-6244

テーマ「デフレーションを考える」 講義方式 全11回

回	開講日	テーマ	講師
1	9月30日	デフレ下日本の経済構想-オルタナティブの異議-	矢野 修一(経済学部 教授)
2	10月 7日	輸入デフレと貿易自由化	藤井 孝宗(経済学部 准教授)
3	10月17日	デフレとエネルギー問題	山本 芳弘(経済学部 准教授)
4	10月20日	地方の路線バス運賃のデフレ基調とそれに伴う課題	大島登志彦(経済学部 教授)
5	10月29日	地方都市における宿泊業のデフレ経済への対応	西野 寿章(地域政策学部 教授)
6	11月 5日	デフレ経済下の小売企業-戦略の転換と新業態の模索-	加藤 健太(経済学部 准教授)
7	11月10日	ウィリアム・モリスの「社会主義」	田功一(経済学部 准教授)
8	11月18日	デフレの社会的費用	中野 正裕(経済学部 准教授)
9	11月27日	近代成長期における群馬県のデフレーション	今野 昌信(経済学部 教授)
10	12月 2日	デフレと地方財政	中村 匡克(地域政策学部 准教授)
11	12月11日	任せることの難しさ-市民協働の現場における人々の取り組み-	藤本 哲(経済学部 教授)

リレー講義後期

- 時間＝14時20分から15時50分 ●場所＝高経大7号館731教室
- 受講料＝無料 ●申し込み＝不要
- お問い合わせ＝教育グループ教務チーム：電話027-344-6264

テーマ「金融ビジネスのフロンティア」

回	開講日	テーマ	講師
1	10月 1日	マクロエコノミーの現状と見通し -アベノミクスの評価を含めて-	元任友銀行取締役 元日本総研理事長 柿本 寿明
2	10月 8日	金融ビジネスを理解するための視点	元(株)第一生命経済研究所 研究理事 中村 恭二
3	10月15日	銀行業界の今 メガバンクの現状と課題 -リーマンショック後の激変と今後のグローバル化-	元東京三菱銀行常務執行役員 浜川 雅春
4	10月22日	銀行業界の今 信託銀行の現状と課題 -少子高齢化時代への対応-	元三菱信託常務取締役 矢ヶ崎隆二郎
5	10月29日	銀行業界の今 地方銀行の現状と課題 -地域活性化への取組み-	元あさひ銀行取締役 松島 博
6	11月 5日	証券業界の今 証券会社に求められる役割とその可能性	元山一証券取締役 山田 稔
7	11月12日	証券業界の今 投資銀行業務 M&Aと企業再生への取り組み	元三菱東京UFJ銀行上野支社長 西村 康裕
8	11月19日	証券業界の今 投資銀行業務 ベンチャーキャピタルとベンチャーの育成	元みずほ総合研究所国際調査部長 黒田 啓征
9	11月26日	資本市場からみたIR(投資家向け情報)活動	元東亜日報編集長 村上 哲也
10	12月 3日	事業法人のIR(投資家向け情報)活動 -社員格付けを含めて-	元常任専務取締役CFO 高野 直人
11	12月10日	生命保険・損害保険業界の現状と課題 -生保の基本機能と資本市場における役割-	元あいおい損保取締役 跡部 浩一
12	12月17日	Suicaを通じた新たなビジネスモデルの確立	JR東日本IT-Suica事業本部企画部長 伊藤 悦郎
13	1月 7日	商社の金融ビジネス -投資事業でのプロジェクトファイナンスの取組み-	元三井物産プロジェクト金融部長 大木 隆
14	1月21日	リース業界の現状と課題	元東証リース(株)常務取締役 赤木 勝正
15	1月28日	不動産ビジネスの現状と課題	元日本政策投資銀行副総裁 寺澤 則忠

図書館

電子資料を活用しよう

図書館では、ネットワーク系電子資料を導入しています。ネットワーク系電子資料とはweb上で読むことができる雑誌やデータベースのことです。膨大なデータの中から必要な情報を瞬時に検索でき、必要なデータをダウンロードして印刷することもできます。利用にあたっては、学内設置のPCだけでなく、個人のPCでも学内無線LANへ接続できればアクセスが可能です。図書館ホームページの「電子ジャーナル(学内専用)」のページから利用することができます。

中でも「日経BP記事検索サービス」「東洋経済デジタルコンテンツライブラリー」「日経テレコン21」等は、企業の詳細データや関連記事等を検索・閲覧することができるので、レポート作成や調査研究にとどまらず就職活動にも活用することができます。

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が開始されました

「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」とは、国立国会図書館でデジタル化した図書や雑誌のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料のデジタル画像を承認を受けた図書館内で閲覧できるサービスです。本学図書館でも承認を受け、6月から利用できるようになりました。

図書館2階窓口にお申込みいただければ無料で閲覧・複写できます。複写については著作権法の範囲内で図書館職員が行います。●お問い合わせ＝研究グループ図書館チーム：電話027-344-6266

同窓会

同窓会・支部総会のお知らせ

今年度各地で開催される、同窓会支部総会の今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在校生も大歓迎です。

●お問い合わせ＝学生支援チーム(同窓会事務局)：電話027-344-6262

支部	開催日時	開催場所・時間
札幌支部	10月3日(金)	京王プラザホテル札幌 18時半～
東京支部	10月18日(土)	東京ガーデンパレス 16時～
宮城支部	10月25日(土)	ホテル法華クラブ 15時～
関西支部	11月8日(土)	新ワシントンホテルプラザ 16時～
東海支部	11月22日(土)	中日/パレス 14時～
飯田支部	11月29日(土)	ホテル弥生
岩手支部	11月下旬	未定
大分支部	12月6日(土)	未定
福井支部	12月6日(土)	一えい 18時～

後援会

高経大後援会学生奨学金について

本学学生の学業と生活の支援を目的とした奨学金制度です。奨学金給付額は授業料の3分の1で、対象者は授業料減免申請対象者の中から、特に成績優秀な学生を事務局で推薦します。

高経TOEIC成績優秀者表彰について

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に対して、賞状及び記念品の授与を行います。表彰を希望する方は平成27年2月27日までに申請書を提出してください。

合宿などにご利用ください

保養券利用可能施設

施設名	連絡先
ゆうすげ元湯	027-374-9211
レークサイドゆうすげ	027-374-9131
はまゆづ山荘	027-378-2333

厚生施設

施設名	連絡先
高経会館	027-344-1521
白馬セミナーハウス	0261-71-1164

教職員、学生、同窓会員等の皆様を対象とした、宿泊・研修施設です。

●お問い合わせ＝後援会事務局(総務グループ内)：電話027-344-7902

上記3施設に宿泊を希望する学生に対して、4,000円分の助成券を発行しています。

三扇祭

今年の三扇祭は11月1日(土)から4日(火)まで開催します。今年のテーマは「扇華鉦(おうかげんらん)」。様々な企画や装飾に取り組み、学園祭を盛り上げます。参加者・来場者が一体となって創りあげる華やかな学園祭をお楽しみください。

また11月2日(日)には、本学卒業生のみならずそのご家族などを対象に、ホームカミングデイを同時開催します。大学を1日開放し、卒業生同士や在学生、教員との交流を深めていただくことを目的としたイベントです。懐かしい母校を体感できる機会です。ぜひお声合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

ホームカミングデイ予定

イベント	開始時間
記念式典	13:00
記念講演会 ●演題/いま前と退屈を考える-経済、社会、哲学- ●講演者/ 藤功一朗先生	13:30
交流会	15:00

経済学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
548	484	520	576	2,128
(148)	(128)	(130)	(147)	(553)

地域政策学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
448	469	492	593	2,002
(155)	(166)	(193)	(205)	(719)

経済・経営研究科学科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
6	4	1	1	0	12
(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(4)

地域政策研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
11	15	3	1	4	34
(5)	(6)	(1)	(1)	(1)	(14)

数値は入、()内は女性数・2014年9月現在



2014